ポライトネスと３人称代名詞の総称的使用

――英語と韓国語についての考察――

厳　　廷　美

１．はじめに

私たちはある特定の言語社会に属し、その言語社会で容認されているカテゴリーに応じて、ある情報や発話を意味あるひとつのまとまりとして認知し、構造化し、それを適切な言語形式に表現していくのである。その際、話し言葉では話し手と聞き手、書き言葉では書き手と読み手との間の関係性（上下関係、親疎関係、社会階層、年齢、職業、役割など）によって、その場にもっともふさわしい言語形式の選択を行うことになる。

特に、韓国語のように、精密な敬語体系が存在する言語においては、尊敬語や謙譲語などの敬語を適切に使い分けることがポライトネス（politeness）に即するポライトな言語表現として考えられてきており、多様な敬語表現の研究が行われてきた。

しかし、ポライトネスとは狭義の意味での敬語表現や行動における規範的なルールや公式ではなく、より本質的で、普遍的な人間行動を支配する要因のひとつとしてとらえる必要がある。さらに、ポライトネスは、言語のレベルだけで考えられてきたが、言語的レベルを含みながら、多様な言語文化圏の社会・文化的なアプローチにおけるポライトネスの考察をも重要な研究視点であると言える。

そこで、本稿では、類型的にも、社会・文化的にも類似性の少ないと考えられている英語と韓国語を取り上げ、両言語における３人称代名詞の総称的用法について、社会的なレベルにおけるポライトネスについて比較検討する。

英語の３人称代名詞においては、これまでの先行研究からその使用用例を取り上げ、韓国語においては新聞記事やTV報道からその用法を考察する。

２．ポライトネスの理論

宇佐美（2002）の分類によると、ポライトネスに対するアプローチは大きく以下の４つに分類できるとしている。①規範的捉え方（linguistic form view）、②会話の原則論としての捉え方（conversational-maxim view）、③フェイス保持のためのストラテジーとしての捉え方（face-saving view）、④会話の契約としての捉え方（conversational contract view）。

本稿では、この中から、①言語形式重視やそのほかの②、④の語用論的捕らえ方をもよりダイナミックに包括する③のフェイス保持のためのストラテジーとしてポライトネスを捉える Brown & Levinson（1987）の枠組みを理論的な根拠とする。

2.1　ブラウン＆レヴィンソンのポライトネス

Brown & Levinson（1987）のポライトネス理論は、上述したポライトネス理論の中で最も基本的で且つ多くの文化圏の敬語行動を説明できる代表的なものであると言える。ブラウン＆レヴィンソンは、人間が言語を媒体としてやり取りをする時の行為は、相手の尊厳もしくはフェイス（face）を脅かす可能性のあるものとし、それを FTA（face threatening act）と名づけた。話し手や書き手が FTA を和らげるために用いるものがポライトネスに応じたストラテジーである。つまり、ポライトネスとは、相手のフェイスを守りながら FTA を行うコミュニケーション上の心配り、気配りのことである。

このポライトネスのストラテジーには、ポジティブなポライトネスとネガティブなポライトネスの二種類があり、それぞれのストラテジーはフェイスを守ろうとする二つの異なる欲求（want）からくるものである。すなわち、ポジティブ・フェイスを守ろうとする positive face want とネガティブ・フェイスを守ろうとする negative face want があるのである。ポジティブ・フェイスとは相手によく思われたい、理解されたい、親しいものとして扱われたい、相手に認められたいという欲求のことである。ネガティブ・フェイスは自分の領域を他人に踏み込まれたくない、干渉されたくない、邪魔されたくない自己領域保持欲求である。

さらに Brown & Levinson（1987）は、FTA を冒す負荷を W（Weightiness）、その文化や場面によって特定の行為が意味する負荷の度合いを R（Ranking）、話者と相手との社会的な類似性と相違性の大きさを D（Difference）、両者の力関係を P（Power）とし、FTA の負荷を、

$$Wx = D(*S,H) + P(H,S) + Rx$$（Brown & Levinson［1987：81］）

＊S : speaker, H : hearer

と数式化し、D、P、R のパラメーターの合計が大きいほど、以下に示すポライトネスのストラテジーの中から、高い番号のストラテジーを選択するとしている。

1．Without redressive action, baldly（あからさまにそのままを言う）
2．positive politeness（ポジティブ・ポライトネスを言う）
3．negative politeness（ネガティブ・ポライトネスを言う）
4．off record（言うべきことを言外にほのめかす）

５．Don’t do the FTA（FTA を避ける）

2.2　ポライトネスの普遍性と相対性

人間には自分のフェイスをも守ろうとする欲求があり、また、円滑なコミュニケーションを行うためには、相手のフェイスを冒さないように工夫された言語行動、すなわち、ポライトネスが要求されるのである。この考え方は、どの言語文化圏においてもあてはまる普遍的なものとして考えられている。しかし、ポライトネスがどのように実際の言語使用に実現されるかは、言語文化圏によって異なり得る。たとえば、Brown & Levinson（1987）による負担の度合い Wx に影響する D、P、R は、個人差はもちろん、地域、民族、文化、社会などのさまざまな要因によって異なり得る。また、どのような言語行為、言語使用が FTA となるかも言語文化圏によって相対的である。したがって、FTA を和らげるために用いるストラテジーも当然異なり得ると考えられる。実際、筆者が行った韓国語と日本日の依頼表現の仕方の対照研究（厳 2002）においても、依頼という FTA 行為に対して、韓国語話者は、日本語話者ほど相手に負担を感じないことが明らかになった。また、そのストラテジーの使用においても韓国語話者は、日本語話者に比べ、より多くのポジティブ・ポライトネスを用いるなど、相違点が見られた。

2.3　人称代名詞の総称的な使用とポライトネス

2.1でもすでに述べたように、ポライトネスは言語行為の場にいる当事者同士の互いのフェイスの保持、また、人間関係の維持を慮って円滑なコミュニケーションを図ろうとする社会的な言語行動を意味する。生田（1997：68）は、「ことばのポライトネスは「配慮表現」、言語的「配慮行動」などと呼ぶほうが適切かも知れない。」とポライトネスを定義している。

結局、われわれがある FTA を行う際に、社会文化的に共有されている心配り、気配り、すなわち、ポライトネスを持って、特定の言語表現を選択し使用しているのである。ある言語社会で使用されている言語表現や形態はその社会全体のポライトネスを反映するものとして考えられるのである。

本項では、このような観点を考察の中心におき、英語と韓国語における３人称代名詞の総称的な用法に焦点をあて、韓国語と英語の人称代名詞使用におけるポライトネスを社会・文化的レベルから論じる。

３．英語の３人称代名詞とその総称的使用

まず、英語における３人称代名詞の総称的使用について見てみよう。英語の伝統的な学校文法によれば、代名詞はその先行詞とその数と姓で一致しなければならない。男をあら

わす名詞はhe、女をあらわす名詞はshe、性を持たない名詞はitであらわされる。しかし、性が不定の先行詞の場合は男性形代名詞を使うという文法規則がある。つまり、he（または、him、himself、his）という代名詞を女性をも含む人間全体の意味で使うことが規範文法で正しいとされてきた。このような男性代名詞による両性の包括表現を「総称的使用」という。

例えば、次のような例文に使われている総称的な用法のhe，hisが規範文法の中で文法的に正しいと教育されてきたのである。しかし、実際に英文を読んで受ける印象ではheは男性だけを意味することが多いと言えよう。

（1）Ask your doctor if *he* can recommend.....
（2）Tom and Jane divorced because each wanted to focus on *his* own life.
（3）Someone left *his* book on the desk.

このような3人称代名詞の総称的な使用は、次の例文のように、特に女性固有の領域とされてきた文脈においては意味の通じない文になる場合もある。

（4）The individual's freedom to bear children should not be defined by *his* education, income or race.（Blaubergs 1978：254）

また、総称的使用は実際の生活において少なからずの問題をきたしてきた。アメリカのマサチューセッツ医学会は、規約の中で会員資格がheで書いてあるという理由で、1850年から1880年までの30年間、女の医師を加入させない（Walsh 1977：225－30）など、実生活に影響を与えてきたのである。

さらに、Martyna（1978：131－8），Mackay and Fulkerson（1979：661－73），MacKay（1980：349－67）などの心理言語学的研究によると、heを男女とも含む意図で使っても、多くの人が男性だけを意味する語として解釈することが明らかになった。これらの研究によって、規範文法の文法記述と実際の意味解釈は異なっていることが証明されたのである。heの総称的使用は、実際の言語使用のルールを文法項目として記述したことによるものではなく、何らかの言語イデオロギーに支えられ、作り上げられたものであると主張されるようになった。

D・カメロン（1990：108，中村桃子訳）は、heの総称的使用が規範文法の中で人為的に文法化されてきた過程について次のように述べている。「トマス・ウィルソンという人が男性代名詞・男性形代名詞の優位を主張した一五五三年以来、文法家は、現在でも日常言語には存在している総称的で指定されていない事物の単数形としてのtheyの使用（例えば、You can't blame a person if *they* get angry about sexist grammar.）を消去しようと

してきた。ジョン・カークビの一七四六年の『文法規則八十八カ条 Eighty Eight Grammatical Rules』によれば、男性形は女性形よりも包括的であるとされ、この見解は、he が法律的に she の意味で用いられた法令全書が出された一八五〇年まで継承された。」

しかし、she の意味を包括する he の文法化、公式化は上述のマサチューセッツ医学会の例でも明らかになったように、女が一人の人間または市民として権利を主張しようとする時には、その文法、公式は適用されず、女性を排除する手段として機能したのである。

he の総称的用法は実際の言語使用を充実に記述するという科学としての言語学を装った文法家によって作り上げられた言語イデオロギーであり、このイデオロギーは学校や出版社、マスコミなどの強力な手助けを得て、われわれの言語社会の中で、その文化的、歴史的要因への懐疑心を抱かれることなく、「自然性」や「文法的正しさ」を持って、補強、維持、再生産されてきたと非難されるようになったのである。

3.1　he の総称的用法の代替用法と現在の使用状況

フェミニスト言語学者は he の総称的使用は、男を人間の代表とし、女はその亜種に過ぎない、または、周辺的な存在として認識させるような潜在的な影響力を持っていると考えた。このような女の不可視化の可能性こそが改革されるべきと主張し、その改革運動が展開されるようになった。しかし、その言語改革運動は、一致したひとつの見解や方法論が見出されたわけではなく、さまざまな代替案が提案された。代表的な代替案は大きく以下の４つの方案にまとめることができよう。

１）he を they に換える
　No one would do that if *he* could do. → No one would do that if *they* could do.
２）総称的名詞文を作り直すなどの中性化
　Give milk to the baby when *he* cries. → Give milk to *the crying baby*.
３）he を he or she、(s)he、s/he、he/she などのように、明確に両性を示す
　Each one made *his* comment. → Each one made *his or her* comment.
４）he の代わりに she を使用する
　Everyone has cast *his* vote. → Everyone has cast *her* vote.

これらの代替案について、１）は数の一致に違反すると抵抗感を感じる人がいる、２）はいつも中性的な文を作り出すという煩わしさがある、３）も常に両方の姓を表示するという煩雑さがある、４）は she を総称的に使うことによる逆差別的な方法であるとの批判を受けるなど、現実的な問題はまだ残っている。

しかし、1980年代から2000年代までの英文法書における総称的 he の記述を調査した李（2006：264）によると、１）総称的用法の he に対する問題意識が時間が経つとともによ

く認識されてきている、2）それに伴う代案の模索が活発である、3）その代案として最も好まれるのは単数の they で、一部の文語体では he or she,（s)he, s/he, he/she などが勧められていると述べている。また、実際の英語母国語話者を対象としたテストでも英文法書と同じ結果が得られたとしている。

英語において提案された代替案は、現実的な問題点はあるものの、文法書だけではなく、実際の英語の使用者の間でも総称的用法の he の問題点が認識され、実際改善された代替案を多く使用していることが明らかになった。

４．韓国語の３人称代名詞とその総称的使用

本項では、韓国語における 3 人称代名詞の総称的使用について、その使用実態を見てみる。韓国語の 3 人称代名詞はその概念や範囲設定において学者の間で一致しておらず、学者によって若干の相違があるのが現状であるといえよう。韓国語の 3 人称代名詞には男性形単数の「그」と女性形単数の「그녀」があるが、女性形代名詞「그녀」を 3 人称代名詞に含まない意見もある[1)]。その理由としては、元々「그녀」が外国語の影響を受けた語であり、「그」に比べ、広く使われないという点があげられる。

しかし、最近の研究（홍상희 2006）によると、小説や新聞などの書き言葉だけではなく、TV ニュース報道やドラマ、映画などでも使われていることが報告されている。使用頻度が多くないから認めないというのではなく、まず、その使用実態を明らかにする必要があるのではないだろうか。また、男性形の「그」に比べ使用頻度が少ない原因についても言語社会学的な分析が必要であると思うのである。

本項では、さまざまな意見の相違があることを踏まえた上、「그」（男性形単数、英語の he）と「그녀」（女性形単数、英語の She）を韓国語の代表的な 3 人称代名詞と設定し、その使用用例を分析する。主に 3 人称代名詞が比較的よく使われる新聞記事や TV ニュースの報道文などからその使用用例を取り上げ、社会・文化的レベルにおけるポライトネスの観点から考察する。新聞記事はハングル専用新聞である한겨레신문（ハンギョレ新聞）から主にその用例を収集した。まず、男性形「그」と女性形「그녀」が使用される典型的な用例を見てみる。

1）人称代名詞の概念や範囲設定について意見が分かれている。まず、人称代名詞の中に事物を指し示す代名詞を含むか否かによって分かれている。이익섭/임홍빈(1983)、서정수(1994) などは、事物を指し示す代名詞を人称代名詞の範疇に含んでいる。
　しかし、박진우（1985)、남기심/고영근(1995)、왕용문/민현식(1993) などは含まない。また、3 人称代名詞の範疇に「그녀」を含むか否かによっても意見が異なり、이관규(1999)、박진욱(1985) 주경희(1992) などは「그녀」を含むべきと主張しているが、反対の意見もあるのは事実である。

（１）（인터뷰）93년 봄부터 지금까지 이프로의 진행자로, 동덕여대 실용음악과 학과장으로, 그보다는 국내 최고 수준의 재즈 피아니스트로 바쁘게 살아가고 있는 *김광민(39)씨*. 뜨거운 땡볕이 내리쬐는 5일 오후에 만난 *그*는 몹시 분주해 보였다.（한겨레 신문 2000/6/7）
（インタビュー）93年度春から今までこの番組の司会者として、トンドク女子大学実用音楽大学学部長として、それより国内最高水準のジャズピアニストとして多忙な生活を送っている*キムグァンミン(39)さん*。暑い日ざしがそそがれる５日午後に会った*彼*はとても忙しそうだった。（ハギョレ新聞 2000年６月７日）

（２）（人物評）때론 푼수처럼 때론 표독스럽게, 다양한 매력을 느낄 새도 없이 어느덧 충무로 꼭대기에 우뚝 서버린 *심은하*, 이제 *그녀*가 울면 관객도 울고, *그녀*가 웃으면 관객도 웃는다.（한겨레 신문 2000/6/7）
（人物評）時にはおっちょこちょいで、時にはとげとげしく、多様な魅力を感じる間もなく、チュンムロの頂点に登り詰めた*シムンハ*、今*彼女*が泣けば観客も泣き、彼女が笑えば観客も笑う。（ハギョレ新聞 2000年６月７日）

（１）と（２）は男性先行詞の「김광민(39)씨」に対して、男性形代名詞「그」が、女性先行詞の심은하に対して、女性形代名詞「그녀」が使用されているもっとも典型的な３人称代名詞の使用例である。

しかし、次の（３）のウクライナの首相、ティモシェンコについての政治家としての能力や業績を称えるような記事では、記事全体において、女性である総理を男性形代名詞「그」で対応している。‘キイェフのジャンダルク’、‘カス姫’などのような女性にしか使えない比喩表現がなされているので、女性形先行詞を男性形代名詞「그」で対応していることに新聞を読む読者は奇妙さを感じないのだろうか。

（３）우크라이나 총리 된 ‘키예프의 잔다르크’
전략)……*티모센코*는 지난해 말 대선 부정 시비로 우크라이나 정국이 혼란을 거듭하고 있을때 수십만명의 야당 지지자들을 선동하고 규합할 때 그 중심에 있었다. *그*는 강한 추진력과 비판적이고 뜨거운 정치적 발언으로 결선 재투표 정국 당시 *‘키예프의 잔다르크’*로 불렸다. 또 에너지산업 개혁을 잘 처리해 *‘가스 공주’*로도 알려져 있다.（한겨레 신문 2005/1/26）
（ウクライナ首相になった‘キエフのジャンダルク’
前略）……*ティモシェンコ*は昨年末大統領選の不正是非でウクライナ政局が混乱を繰り返していたときに数十万人の野党の支持者を先導し糾合した時その中心

にいた。*彼*は強い推進力と批判的で暑い政治的発言で決戦再投票政局当時‘キエフのジャンダルク’と呼ばれた。また、エネルギー産業改革をうまく処理し‘カス姫’としても知られている。（ハギョレ新聞 2000年５月26日）

また、（４）のスペインの女性防衛庁長官の卓越な仕事ぶりを紹介する記事の中で、女性長官に対して同じく男性形代名詞で対応している。

（４）스페인 첫 女국방장관 출산

임신 7개월의 몸으로 지난 4월 스페인 최초의 여성국방장관이 된 *카르메 차콘(37)*이 19일 고향인 바르셀로나의 한병원에서 첫 아이를 낳았다고 AP 통신 등이 보도했다. 군과 별다른 인연이 없었던 *그*가 아직 여군 장성이 없을 정도로 여성 진입 장벽이 높은 스페인에서 국방장관에 기용된 것은 국민이 깜짝 놀랄 인사로 평가 받았다. 차콘 장관은 젊은 나이에 그것도 임신한 상태에서 국방 수장이 된 뒤 국민의 불안을 불식하기 위해 장관 일주일 만에 산부인과 의사를 대동해 아프카니스탄에 파건된 스페인군 등 세계 각지 파병 장병 격려 방문에 나서는 열정을 과시하기도 했다.（한국일보 2008/06/02, 사람들）

（妊娠７ヶ月の体で４月にスペイン最初の女性防衛庁長官になった*カルメチャコン(37)*が19日故郷のバルセロナの病院で初の子供を出産したと AP 通信などが報道した。軍とは特別な縁がなかった*彼*がまだ女性将軍がいないほど女性の進出への障壁が高いスペインで防衛庁長官に任命されたのは驚く人事として評価された。チャコン長官は若い上に、さらに妊娠した状態で防衛庁の首長になった後、国民の不安を払拭するため、長官になった後一週間後産婦人科の医師を伴い、アフカニスタンに派遣されたスペイン軍など、世界各地の派兵兵士の激励訪問に出掛けるなど情熱を見せた。（韓国日報 2008年６月２日、人物欄）

女性先行詞に対して（２）では女性代名詞の「그녀」が、一方、（３）と（４）では「그」が用いられている。その理由として、（２）の人物評の記事は、文体が格式ばっておらず、人気女優の女性としての魅力を表現するような記事であるため、女性性を直接的にあらわす必要があり、女性代名詞を用いたのではないかと推測できる。しかし、（３）と（４）では、一国の女性首相や防衛庁長官の政治的力量や事業家としての功績を称える内容で、女性性をあらわさないで、むしろ、男性性として言いあらわすことで、その人物の功績や能力が客観化され読者に伝わるためなのではないだろうか。これらの例から、人物が女性の場合、書き手の意図や文の種類などのような様々な要因によって、女性代名詞も、男性代名詞も用いられることが明らかになる。

しかし、同様のことは男性先行詞に対しては起き得ない。例えは、（１）の記事の主人

公の「김광민(39)씨」に対して女性形代名詞「그녀」を使用することは、どんな状況、文脈においても起きないばかりか、非文法的な使い方になる。

（５）[（文化）企画、連載] 그래도 *황수정(29)*을 만나기로 한 날, 아침부터 내린 눈은 뭔가 분위기 있어 보였다. …(중략) 그래도 카메라 앞에서는 언제 그랬냐는 듯 생글생글 미소를 짓고 있었다. 한손을 들어 눈을 느끼던 그는“눈이 참 많이 내려요”라며 미소 지었다. 그는 역시 연예인이었다. 황수정은 지난해 MBC 사극‘허준’의 예진 아씨로 나오며 다소곳하면서도 지고지순한 여인의 이미지로 뜨거운 사랑을 받았다. …(중략)
누가 *그녀*를 조선시대의 규수같다고 했던가. 듣기 싫은 얘기가 나오면 어느새 눈을 동그랗게 뜨고 목소리를 높여 자기 주장을 펼쳤다. …(후략)(중앙일보 2001/2/26、홍상희（2001：29）의 예문으로 부터 전재）
（[（文化）企画、連載]　それでも*ハァンスジョン(29)*と会うことにした日、朝から降り続けた雨は何となく雰囲気よさそうに見えた。……（中略）それもカメラの前ではいつの間にかニコニコ微笑んでいた。片手をあげ、雪を触っていた*彼*は“雪がたくさん降っていますね”と微笑んだ。*彼*はやはり芸能人だった。ハァンスジョンは昨年 MBC 時代劇の‘ホジュン’のイェジンの役で、慎ましやかで落ち着いた女性のイメージで熱い人気を受けた。……（中略）誰が*彼女*を朝鮮時代の女性だといえるのか。聞きたくない話には目を丸くし、声を高く自分の主張を述べた。……（後略）（中央日報 2001年２月26日、홍상희（2001：29）から転載）

（５）の記事では同じ女性人物を、男性、女性両方の代名詞で対応している。文のはじめには女優のハァンスジョンを男性代名詞「그」で対応しているが、彼女のドラマの中での魅力的な若い女性としての役ぶりについて触れる後半部では、女性代名詞の「그녀」で対応している。人気女優の人物評がその人物の女性らしさを表現していくにつれ、自然な人間の感受性の反映として、女性先行詞について女性代名詞を使用したのではないかと推測できよう。また、記事全体の文体もインフォーマルなので、女性代名詞を混用することにさほどの抵抗感を覚えなかったのかも知れない。

では、次の（６）TV ニュースの報道文を見てみよう。

（６）[TV 뉴스] …(전략)기자：인기 가극 배우 출신으로 지난해 처음 입각한 *오기 건설성 장관*, 4 선 의원인 *그녀*는 화려한 패션과 거침없는 언변으로 끊임없이 화제를 뿌리며 언론의 스포트라이트를 받고 있습니다. 바로 이 오기 장관이 오는 6 일부터 건설성과 운수성, 국토청등 4 개 부처를 통합한 국토교통성의

수장이 됩니다. 예산만 전체 공공사업비의 80%, 직원만 7 만명에 육박하는 슈퍼 부처입니다. 이 같은 공룡 부처가 탄생하게 된 것은 정부 조직이 현재 22 개 성청에서 12 개로 통합 개편되기 때문입니다. …(후략)（SBS 뉴스 2001/1/3、홍상희（2001：29）의 예문으로 부터 전재）

（[TV ニュース] …（前略）記者：人気歌劇俳優出身で去年初めて入閣した*扇国土交通大臣*、4 選委員の*彼女*は華麗なファッションと憚かることのない話で絶えない話題を撒き散らしながらマスコミのスポットライトを受けています。まさに、この扇大臣が 6 日から建設省と運輸省、国土省など 4 つの部署を統合した国土交通省の首長になります。予算だけで全体公共事業費の80%、職員だけでも 7 万人に近いスーパー部署です。このような恐竜部署が誕生するようになったのは政府組織が現在22個の省庁から12個に統合改変されるからです。……（後略）（SBS ニュース2001年 1 月 3 日、홍상희（2001：29）の例文から転載）

TV ニュースの報道文は格式的な話し言葉である。（6）の報道ニュースは日本の小さい政府の一例としての国土交通省の女性大臣についての報道であるが、（3）、（4）の用例と同じく、女性政治家についての内容であるにもかかわらず、女性大臣を「그녀」で指している。これは記事の内容や文体のせいではなく、TV ニュースという映像とともに放送される報道文であるからだと推測できる。女性大臣の実際の顔の映像とともに報道されるものであるため、女性を男性代名詞の「그」で指すことへの記者自身の抵抗感だけではなく、視聴者の感性をも考慮した選択ではないかと考えられる。

上記の例からも見てみたように、韓国語においては、男性形人称代名詞の「그」が女性を含む意味として総称的に使用されることがある。しかし、女性代名詞「그녀」は男性を含む意味として総称的に使用されることはまったくないのである。つまり、現代韓国語においては、性別によって 3 人称代名詞が非対称的に使用されることが分る。

５．英語と韓国語における３人称代名詞の使用とポライトネス

3 人称代名詞の使用特徴を英語と韓国語で比較してみると、英語の場合、照応を受ける先行詞の性別が不定の場合、男性形代名詞 he が女性を含む意味として総称的に使われてきた。しかし、李（2006）の研究でも明らかになったように、現在では言語改革によって総称的 he の使用は好まれなくなっており、代替表現が多く使用されるようになっている。

しかし、韓国語においては、照応を受ける先行詞の性別がはっきりしている文でさえ、男性形代名詞が女性を含む意味として総称的に使用される。特に、文の内容や種類がよりフォーマルな場合に総称的使用がよく見られることがわかる。

韓国語において性別による 3 人称代名詞の非対称的使用を可能にするのは何なのだろう

か。筆者は、その原因のひとつとして、女性をあらわす語の意味の墜落または意味の縮小があると考える。対照をなし、相補的に使用されるべき二つの３人称代名詞の意味が非対称的に使われるのは、女性をあらわす人称代名詞「그녀」の意味が、韓国の言語社会・文化の中で、否定的に意味づけられているためにその使用が制限されることがあるのではないだろうか。「그녀」が「그」と同じように、人間としての女を意味するというより、女という性的役割をあらわす語として意味縮小が行われてきているので、多くの業績を残すなど、社会的にいい影響を与える女性については、「그녀」が使われにくくなるのではないかと思う。中村（1995：25）によると、he/man 言語の総称的使用は、「人間＝男間」をあらわすものであると述べている。「「男が人間の基準である」という考え方を「人間＝男観」と呼ぶ。「人間＝男観」は、「性差別・家父長制・男支配」のイデオロギーを支え正当化する機能を果たしている重要な考え方のひとつである」

このような３人称代名詞の総称的用法を、前述したポライトネスの理論の枠組みから考え直してみよう。英語圏や特に韓国語圏においては、女性を男性代名詞として表現することが、FTA の負担（W）を軽減させる社会的ポライトネスだといえよう。

言い換えると、he と「그」の男性代名詞で女性を言いあらわすことで、「人間＝男」の範疇に女性を入れることになる。それは、ポライトに女性を待遇する社会的レベルにおけるポライトネスの実現といえよう。

また、言語的レベルにおけるポライトネスの観点から考えると２．ポライトネス理論で述べているように、女性を「男性＝人間」の仲間に入れることによって、ポライトネスを保つという意味において、ポジティブ・ポライトネスのストラテジーが使用されていると言える。

６．おわりに

本稿では英語と韓国語における３人称代名詞の総称的使用について、ポライトネスの観点から考察した。英語、韓国語両言語において総称的使用が見られた。英語では現代においてかなりの改善がなされたものの、完全に３人称代名詞の総称的使用がなくなっているとは言えない状況である。韓国語においては総称的使用が言語社会的視点から問題にされることはほとんどない。韓国語では男性代名詞で女性を指し示すことがその言語社会が共有している社会的ポライトネスだといえよう。

このように、違う言語文化圏におけるある言語現象を社会文化的レベルにおけるポライトネスの枠組みの中で捉えることによって、それぞれ個別の言語現象としてみられてきたものを、普遍的な共通の原則の中におくことが可能になる。

従来の狭義の意味での敬語行動だけをポライトネスの範疇におく研究は、多様な言語の敬語行動の特徴を認めながらも普遍的な共通の認識や理論でポライトネスを包括すること

ができなかった。しかし、言語的視点から社会文化的視点へ視点を換えることによって、ポライトネスの普遍性の枠組みをさらに補強していくことができると思う。

本研究は、英語と韓国語３人称代名詞の使用特徴を普遍的なポライトネスの理論の中で捉えなおすことができたと思う。しかし、その使用特徴をより客観的に明らかしていくためには、さまざまなテキストにおける３人称代名詞の実際の使用データが必要であるとともに、韓国語話者の総称的使用についての意識調査も実施する必要があると思われる。これらは今後の研究課題であることは言うまでもない。

引用文献

生田少子（1997）「ポライトネスの理論」、『言語』、26-6、1997年６月

宇佐美真まゆみ（2002）「「ポライトネス」研究の流れ」、『言語』、31-2、2002年２月

厳廷美（2002）『ポライトネスにおける言語と性差研究の再考―韓国語と日本語の対照研究から―』、松山大学総合研究所、2002年

D・カメロン（1990、中村桃子訳）『フェミニズムと言語理論』勁草書房

中村桃子（1995）『ことばとフェミニズム』、勁草書房、1995年

남기심/고영근（1995）『표준국어문법론』탑출판사

박진욱（1985）『현대국어의 대명사에 관한 연구-의미 형태 분석을 중심으로』고려대학교 대학원 국어국문과 석사논문

서정수（1994）『국어문법』 뿌리 깊은 나무

왕용문/민현식（1993）『국어문법론의 이해』개문사

이익섭/임홍빈（1983）『국어문법론』학연사

이필환（2006）「성 편견이 제거된 영어 3 인칭 단수 대명사에 관한 연구」『신영어영문학』34집

주경희（1992）『국어 대명사의 담화 분석적 연구』서울대학교 박사논문

홍상희（2001）『여성 3 인칭 대명사 그녀에 대한 연구』홍익대학교 교육대학원 석사논문

Blaubergs, Maija S.（1978）‘Changing the sexist language: The theory behind the practice’, *Psychology of Women Quarterly* 2(3)

Brown, P and Levinson. S.（1987）*Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge University Press.

Mackay, D.（1980）‘On the Goals, Principles, and Procedures for Prescriptive Grammar: Singular *They*.’ *Language in Society* 9,

Mackay, D. and D. Fulkerson（1979）‘On the comparison and Production of Pronouns.’ *Journal of Verbal Learning and verbal Behavior* 18

Martyna（1978）‘What Does He Mean?: Use of the Generic Masculine.’ *Journal of Communication* 28.1

Walsh, Mary R（1977）*Doctors wanted: No Women Need Apply: Sexual Barriers in the Medical Profession, 1835-1975*. New Haven: Yale University Press

Social Politeness and the Generic Use of the 3rd Person Personal Pronoun

──Study of English and Korean──

JEONGMI UM

In this paper I examine and analyze the relationship between gender representation and social politeness in the present usage of the generic use of the 3rd person pronoun as one of the processes of the gender identity construction in English and Korean. As a result, it has turned out that the generic use itself appears in English and Korean even if there are some individual differences.

In the case of English, when the sex of the noun of the antecedent which receives a correspondence was unfixed the generic male form of 3rd person personal pronoun “he” was generically used as a meaning including a woman. However, due to the language reform in the present, the use of “he” to represent both women and men has been decreasing. In Korean, though the sex of the noun which receives a correspondence has been clarified, the male form of the 3rd person personal pronoun “Ku” is generically used to include women.

The generic use in Korean and English is considered and translated as a language form to show social politeness to women in Korean and English society. I discuss the generic use in both languages would mean one of positive politeness strategies in the view of social politeness.